

1 専門教育科目の構成

1. 人間文化学科の教育目的

人間文化学科の教育目的は次の3点である。第1に、学生が学科で学ぶ学問分野の基本的な研究方法を身につけ、研究課題を発見し、その解決に向けて必要とされる論理的な思考力、表現力、コミュニケーション能力を備えた女性の育成である。第2に、国際社会の変化をしっかりとらえ、それに対応することのできる豊かな国際感覚と外国語運用能力を身につけた女性の育成である。そして、第3に、教養豊かな女性の育成である。

上記3つは、複雑で先行きが不透明な現代という時代を生き抜くために不可欠の能力としてすべての女性に必要なものである。「教養豊かな女性」とは単に知識が豊富な女性を意味するものではなく、身につけた知識を、現代を生き抜くための知恵として積極的に活用できる女性のことである。

端的に言えば、教養を自分自身のためではなく、現代の日本、そして世界のために役立たせることができる女性の育成。それが人間文化学科の教育目的である。

2. 人間文化学科の特徴

人間文化学科の特徴は次の3点である。第1に、日本や世界を歴史という時間軸と地域という空間軸で把握しようとすることである。これは人間文化学科の歴史系とグローバル系という2つの科目群に対応し、両者を縦軸と横軸にして複雑な現代の解明に迫っていくのである。第2に、現場主義、実物主義を重視していることである。人間文化学科ではフィールド実習という科目を設け、広く日本や世界の文化に直接触れることのできる機会を提供している。第3に、教員免許と学芸員資格を取得できることである。両資格とも人間文化学科で学んだことを社会に役立てることのできる資格として学科として重視している。

人間文化学科での学びは空理空論に終わるものではなく、決してない。それはしっかりと地に足の着いたものであり、将来の進路に結びついているのである。

3. 教育課程の特色

人間文化学科における学びには大きく分けて以下の2つの系があり、含まれる科目の領域はおおむね以下のとおりである。

系	科目領域
歴史系	日本史、東洋史、西洋史、哲学、日本美術史、西洋美術史など。
グローバル系	地域学（アジア・ヨーロッパ）、文化人類学、政治学など。

1年次～2年次は、学問的方法の基礎を学びつつ広範囲から科目を選んで学ぶ。「基礎科目群」(1～2年次)で両系のさまざまな領域を幅広く学び、1年次の「入門演習」では、演習(ゼミ)形式の科目を入門的に体験する。2年次は「導入演習」、「入門資料講読」で学びつつ、両系の「専門科目群」の科目を自らの関心に基づいて選択する。

3年次は、2年次までに習得した幅広い範囲の基礎知識をもとに、専門分野の知識を深める。様々な科目群の科目を取りつつ、「発展演習」において研究方法を学び、卒業論文作成に必要な準備と訓練を重ねる。

4年次は、今までの学習の集大成として卒業論文を作成する。

目標	学年	履修モデル
専門分野をさかして、幅広く学ぶ	1年次	基礎科目を履修する ・基礎科目：1年次開講の科目から8～12科目を選択（「歴史・地域学入門」は必修） ・入門演習（後期） 1年次開講のその他の科目から選択する（他学科の開放科目および他大学の単位互換科目を含む）
	2年次	基礎科目を履修する ・基礎科目：1年次開講の科目から2～4科目を選択 専門科目を履修する ・講義科目：2年次開講の科目から4～8科目を選択 ・演習科目：導入演習、入門資料講読 1～2年次開講のその他の科目から選択する（他学科の開放科目および他大学の単位互換科目を含む）
専門分野を深める	3年次	専門科目を履修する ・講義科目：3年次以下の開講科目から6～10科目を選択 ・演習科目：3年次開講の2科目 1～3年次開講のその他の科目から選択する（他学科の開放科目および他大学の単位互換科目を含む）
卒業論文を準備して、作成する	4年次	卒業論文の作成 ・卒業研究演習：2科目 ・卒業論文 1～4年次開講のその他の科目から選択する（他学科の開放科目および他大学の単位互換科目を含む）

\* 履修モデルに記されている科目数は、あくまで目安であることに留意してほしい。

\* 資格取得をめざす場合は、上記以外に、卒業要件に入らぬ指定科目を各学年で取る必要がある。

\* 派遣留学（国内、海外）をする場合は、留学前後の本学で学ぶ期間内に、モデルよりも多く科目をとることになると考えられる。

2 履修方法

◆卒業要件単位

卒業するためには、以下の要件を満たし、合計124単位以上履修しなければならない。

1) 一般教育科目

一般教育科目は36単位以上履修すること。その科目内訳は以下のとおり。

◎必修科目(計36単位)

1年次:「キリスト教学」、「基礎演習」、「日本語演習」、「女性と人権」、「音楽の世界」、「自然科学入門」、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」  
第二外国語はドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語のいずれかを選択（「ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「ドイツ語リテラシーⅠ・Ⅱ」または「フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「フランス語リテラシーⅠ・Ⅱ」または「中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「中国語リテラシーⅠ・Ⅱ」または「朝鮮語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「朝鮮語リテラシーⅠ・Ⅱ」）

ラシーⅠ・Ⅱ)

「体育講義」、「体育実技」

2年次：「社会保障と福祉」、「自然科学特論」、「総合コース」(A～Eのなかから1科目選択)、「英語リテラシーⅠ・Ⅱ」

3年次：「キリスト教と現代社会」、「ライフワーク論」、「科学技術論」

#### ●選択科目

1年次：「情報処理」

3年次：「日本国憲法」

4年次：「キャリア形成論」

1～4年次：「シーズンスポーツ」

2～4年次：「スキルアップ英語」、「スキルアップドイツ語」、「スキルアップフランス語」、「スキルアップ中国語」、「スキルアップ朝鮮語」、「スポーツ」

2～3年次：「実践フランス語Ⅰ」、「実践中国語Ⅰ」

3～4年次：「実践フランス語Ⅱ」、「実践中国語Ⅱ」

## 2) 専門教育科目

専門教育科目は以下のように合計 80 単位以上履修すること。

### A. 講義科目：

1年次開講の基礎科目群からは、9科目18単位以上を履修すること。その内「歴史・地域学入門」は必修とし、その他の科目から8科目16単位以上を履修すること。

2年次開講の専門科目群(歴史系およびグローバル系)からは、各3科目6単位以上、合わせて6科目12単位以上履修すること。

3年次開講の専門科目群(歴史系およびグローバル系)からは、各2科目4単位以上、合わせて4科目8単位以上履修すること。

3・4年次開講の特論科目からは、1科目2単位以上履修すること。

### B. 演習科目：

1年次の「入門演習」2単位を履修すること。その際、一般教育科目「基礎演習」とは異なる教員の担当クラスを選択する。

2年次の「導入演習Ⅰ・Ⅱ」を、各2単位履修すること。その際、ⅠとⅡは異なる教員の担当クラスを選択する。

3年次で「発展演習Ⅰ・Ⅱ」を各2単位履修すること。

4年次で「卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ」各2単位、「卒業論文」4単位を履修すること。

### C. 資料講読科目：

2年次の「入門資料講読」を2単位履修すること。なお、「発展資料講読」は選択科目であるが、同一教員担当の「入門資料講読」の単位を取得した者だけが履修できる。

### D. 「キャリアデザイン」2単位を履修すること。

E. 上記A.～D.で履修した以外の「専門教育科目」のうち任意の科目を18単位以上履修すること。「個別研修」はその中に12単位まで含めることができる。

## 3) 自由選択科目

自由選択科目は8単位以上履修すること。

この8単位は、『専門教育科目の選択科目』『一般教育科目の選択科目』『他学科の開放科目』『学芸員に関する科目の中の卒業要件△印の科目』ならびに『本学と協定を締結している他大学の単位互換科目』から履修すること。

### ◆「フィールド実習」について

「フィールド実習」は、他科目同様にカリキュラムに含まれ、他科目同様に4月または9月に科目登録を行うが、実習の説明会は多くの場合、実習実施の前年度に開催される。説明会に関する掲示を見落とさないよう注意すること。

「フィールド実習」に参加するには、特に指示がない限り、「フィールド実習事前指導」(半期の授業科目)と「フィールド実習」の両科目を登録・履修すること。

### ◆「個別研修」について(2・3・4年次認定科目)

#### (1) 語学

国内の大学、短期大学、あるいは専門学校等で開講されている語学講座に参加した場合、海外の正規の大学に附属している語学学校等に留学した場合は、それぞれの学校で修得した語学科目を、言語の種類を問わず、本科目に振り替えることができる。ただし、休学を伴う私費留学は対象とはしない。

#### (2) 地域学

海外の大学に正規に在学留学して、本学科に開設のグローバル系の諸科目に関連した科目を学ぶ場合、及び国際協力NGOセンターあるいは本学科が認定した国内外のスタディ・ツアー、ワーク・キャンプ等の現地実習に参加する場合は、それぞれの大学や機関で修得した科目及び研修を本科目に振り替えることができる。ただし、休学を伴う私費留学は対象とはしない。

#### (3) 資格

国内外で実施されている各種検定試験において認定された資格を本科目に振り替えることができる。再度履修の際には、区分が重複しないように確認して申請すること。試験結果の有効期間は2年間とし、本学入学以前に取得した科目についても単位を認定する。

個別研修は認定単位科目であり、すべてキャップ制対象外である。履修登録の必要はないが、単位認定には学科への申請手続きが必要である。

申請受付は年1回とする。認められた単位は後期の成績として処理するため、申請期間は12月から1月の間を予定している。申請手続きについては、全て学科掲示板で周知する。申請に関する質問は学科教務センター担当教員にすること。申請書の受け取りおよび提出先は人間文化学科副手室とする。

申請書に添付が必要な書類はそれぞれ以下のとおり。

①語学：学習期間・時間・内容および成績を証明する書類またはそれに代わる修了証(単位認定に十分な研修内容かどうか等を研修前に教務センター担当教員に確認しておくこと。)

表1 個別研修の認定区分について

● 語学・地域学					
区分	研修内容	認定基準	認定科目の名称	単位	
語学	語学学校等での語学科目の受講	30 時間以上の研修	個別研修	2	
地域学	海外の大学での地域学関係の科目の受講、スタディー・ツアー、ワーク・キャンプ等				
● 資格					
区分	検定試験名	実施団体	認定基準	認定科目の名称	単位
英語(1)	TOEFL iBT	国際教育交換協議会	45 点以上	個別研修	2
	実用英語技能検定	日本英語検定協会	2 級		
英語(2)	TOEFL iBT	国際教育交換協議会	79 点以上		
	実用英語技能検定	日本英語検定協会	準 1 級以上		
フランス語(1)	実用フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	3 級		
フランス語(2)	実用フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	2 級以上		
ドイツ語(1)	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	3 級		
ドイツ語(2)	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	2 級以上		
中国語(1)	中国語検定	日本中国語検定協会	2 級		
	漢語水平考試	中華人民共和国教育部	5 級 210 点 (70%以上)		
中国語(2)	中国語検定	日本中国語検定協会	準 1 級以上		
	漢語水平考試	中華人民共和国教育部	6 級 225 点 (75%以上)		
朝鮮語(1)	「ハングル」能力検定試験	ハングル能力検定協会	準 2 級		
	韓国語能力試験	韓国教育財団	3 級以上		
朝鮮語(2)	「ハングル」能力検定試験	ハングル能力検定協会	2 級以上		
	韓国語能力試験	韓国教育財団	5 級以上		
日本語・漢字(1)	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会	準 1 級		
日本語・漢字(2)	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会	1 級		
	日本語教育能力検定試験	日本国際教育支援協会	合格		
旅行業務(1)	国内旅行業務取扱管理者試験	全国旅行業協会	取得		
旅行業務(2)	総合旅行業務取扱管理者試験	日本旅行業協会	取得		
通訳	通訳案内士試験	国際観光振興昨日	取得		
観光英語(1)	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会	2 級		
観光英語(2)	観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会	1 級		
世界遺産	世界遺産検定	世界遺産アカデミー	2 級以上		

②地域学：学習期間・時間・内容および成績を証明する書類または報告書、研修修了証（単位認定に十分な研修内容かどうか等を研修前に教務センター担当教員に確認しておくこと。）

③資格：検定試験合格の認定証や級、スコアが記載されている書類のコピー。（単位認定の可否は、単位認定基準表に基づく。）

#### ◆再度履修が可能な科目について

(1)「個別研修」:

「個別研修」の単位として認定する要件は、表1で示す20の「区分」に分かれている。卒業要件単位に含めることができるのは3回までとし、区分が異なる場合に限る。

区分について具体的に説明すると、「語学」、「地域学」はそれぞれが独立した区分である。「資格」については複数の区分に分類しており、例えば「ドイツ語技能検定(3級)」、「ドイツ語技能検定(2級以上)」は、それぞれが異なる区分(「ドイツ語(1)」と「ドイツ語(2)」)に属している。よって、「語学」「地域学」「ドイツ語技能検定(3級)」の3回(3種類)の申請で個別研修の単位認定を受ける場合、それぞれが異なる区分に属するため、そのすべてを卒業要件単位に含むことができる。

「語学」、「ドイツ語技能検定(3級)」、「ドイツ語技能検定(2級以上)」の3回でも、同様である。4回目以降は、再度履修として単位は認められるが、卒業要件単位に含めることはできない。

なお、区分が同じ場合は、再度履修として認められない。例えば、「中国語検定(2級)」と「漢語水平考試(5級)」は相異なる資格だが単一の区分(「中国語(1)」)に含まれるので、どちらか一方の資格で個別研修の単位を認められた人は、もう一方の資格も修得して単位認定を申請しても、それで認定を受けることはできない。どのような区分があるかは、表1で確認すること。

(2)「フィールド実習(国内)」 「フィールド実習(海外)」 「フィールド実習事前指導」:

卒業要件単位に含めることができるのは、それぞれ1回だけである。

したがって、例えばフィールド実習(海外)に2回参加する場合、2回目は「フィールド実習(海外)」と「フィールド実習事前指導」の再度履修となり、どちらの単位も卒業要件単位には含めない。

また、フィールド実習(海外)とフィールド実習(国内)に参加する場合、「フィールド実習(海外)」と「フィールド実習(国内)」は別科目なので再度履修で

はないが、「フィールド実習事前指導」は（特に指示がない限りは）それぞれについて履修するため、再度履修と関わることになる。2回目の履修となる「フィールド実習事前指導」（同一学期の場合、実習実施時期が遅い方の実習の事前指導）の単位は、卒業要件単位に含めない。

(3) 「入門資料講読」「発展資料講読」:

卒業要件単位に含めることができるのは、それぞれ3回までとし、別クラスを履修する場合に限る。教員が同じか異なるかは問わない。同一クラスを履修する場合は、2回目であっても、卒業要件単位には含めない。

同じ学期に複数のクラスを再度履修として履修することはできない。

#### ●キャップ制について

キャップ制とは、授業の予習や復習など教室外において学習する時間を考慮し、単位の過剰登録を防ぐため、学期間・年間に履修登録できる単位の上限を設ける制度である。

1年度あたり修得できる単位数は、前期、後期それぞれ28単位、通年で48単位を超えてはならない。

### 3 取得できる免許と資格

人間文化学科では、次の免許・資格を取得することができる。取得方法については、「資格・免許」(P109～)を参照にすること。

教育職員免許状： 中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許（地理歴史）

高等学校教諭一種免許（公民）

資 格： 学芸員

### 4 教育課程表の記号について

・「卒業要件」…卒業に関わる授業科目

・「免許・資格」…免許・資格取得に関わる授業科目

必修	◎
選択必修（複数の科目から指定の単位数を必ず選択する）	○
選択（卒業要件単位）	△
自由（卒業要件単位には含まれない）	◇
教職（中一種免・高一種免を両方取得希望者）必修	※

5 教育課程表

人間文化学科教育課程表

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	免許・資格				
				1年次	2年次	3年次	4年次			社会(中学校)	地歴(高校)	公民(高校)	学芸員	
人文社会系科目	◎	キリスト教 学	2	2										
	◎	キリスト教と現代社会	2			2								
	◎	基礎演習	2	2										
	◎	日本語演習	2	2										
	◎	女性と人権	2	2										
	◎	音楽の世界	2	2										
	◎	社会保障と福祉	2		2									
	◎	ライフワーク論	2			2								
	△	キャリア形成論	2				2							
	△	日本国憲法	2			2				◎	◎	◎		
自然科学科目	◎	自然科学入門	2	2										
	◎	自然科学特論	2		2			可						
	◎	科学技術論	2			2								
情報科目	△	情報処理	2	2						◎	◎	◎		
一般総合科目	○	総合コース A	4		4			可	} 1科目4単位以上選択必修					
	○	総合コース B	4		4			可						
	○	総合コース C	4		4			可						
	○	総合コース D	4		4			可						
	○	総合コース E	4		4			可						
外国語科目	◎	英語コミュニケーション I	1	1						◎	◎	◎		
	◎	英語コミュニケーション II	1	1						◎	◎	◎		
	◎	英語リテラシー I	1		1									
	◎	英語リテラシー II	1		1									
	△	スキルアップ英語	1			1		可						
	○	ドイツ語コミュニケーション I	1	1					} 同一外国語を 4科目4単位以上選択必修					
	○	ドイツ語コミュニケーション II	1	1										
	○	ドイツ語リテラシー I	1	1										
	○	ドイツ語リテラシー II	1	1										
	○	フランス語コミュニケーション I	1	1										
	○	フランス語コミュニケーション II	1	1										
	○	フランス語リテラシー I	1	1										
	○	フランス語リテラシー II	1	1										
	○	中国語コミュニケーション I	1	1										
	○	中国語コミュニケーション II	1	1										
	○	中国語リテラシー I	1	1										
	○	中国語リテラシー II	1	1										
	○	朝鮮語コミュニケーション I	1	1										
	○	朝鮮語コミュニケーション II	1	1										
	○	朝鮮語リテラシー I	1	1										
○	朝鮮語リテラシー II	1	1											
△	スキルアップドイツ語	1			1		可							
△	スキルアップフランス語	1			1		可							
△	スキルアップ中国語	1			1		可							
△	スキルアップ朝鮮語	1			1		可							
△	実践フランス語 I	2		2			可							
△	実践フランス語 II	2			2		可							
△	実践中国語 I	2		2			可							
△	実践中国語 II	2			2		可							
体育科目	◎	体育講義	1	1						◎	◎	◎		
	◎	体育実技	1	1						◎	◎	◎		
	△	シーズンスポーツ	1			1		可		△	△	△		
	△	スポーツ	1			1		可		△	△	△		

人間文化学科

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	免許・資格				
				1年次	2年次	3年次	4年次			社会 (中学校)	地歴 (高校)	公民 (高校)	学芸員	
基礎科目	◎	歴史・地域学入門	2	2										
	○	メディア論	2	2										
	○	世界遺産概説	2	2										
	○	哲学概論	2	2					◎		◎			
	○	文化人類学	2	2							△	○		
	○	フィールドワーク論	2	2					△					
	○	時事問題概説	2	2										
	○	日本史概説	2	2					◎	◎				
	○	東洋史概説	2	2					◎	◎				
	○	西洋史概説	2	2					◎	◎				
	○	芸術史概説	2	2										
	○	文化論概論A	2	2					△	△		○		
	○	文化論概論B	2	2					△	△				
	○	文化論概論C	2	2					△	△				
○	文化論概論D	2	2					△	△					
専門科目	○	日本社会の歴史A	2		2					△	△		○	
	○	日本社会の歴史B	2		2					△	△		○	
	○	東洋社会の歴史A	2		2					△	△		○	
	○	東洋社会の歴史B	2		2					△	△		○	
	○	西洋社会の歴史A	2		2					△	△		○	
	○	西洋社会の歴史B	2		2					△	△		○	
	○	日本美術史A	2		2					△	△		○	
	○	日本美術史B	2		2					△	△		○	
	○	西洋美術史A	2		2					△	△		○	
	○	西洋美術史B	2		2					△	△		○	
	○	地域社会史A	2			2				△	△		○	
	○	地域社会史B	2			2				△	△		○	
	○	女性の歴史A	2			2								
	○	女性の歴史B	2			2								
歴史	○	思想と哲学の歴史A	2			2						△		
	○	思想と哲学の歴史B	2			2						△		
	○	考古資料の研究A	2			2				△	△		○	
	○	考古資料の研究B	2			2				△	△		○	
	専門科目(グループ)	○	地域文化論A	2		2						△		
		○	地域文化論B	2		2						△		
		○	地域文化論C	2		2						△		
		○	地域文化論D	2		2						△		
○		地域文化論E	2		2						△			
○		地域文化論F	2		2						△			
○		地域文化論G	2		2						△			
○		地域文化論H	2		2						△			
○		現代文化論A	2		2							△	○	
○		現代文化論B	2		2							△		
○		地域社会論A	2			2				△		△		
○		地域社会論B	2			2				△		△		
○		現代社会論A	2			2				△		△		
○		現代社会論B	2			2				△		△		
国際社会論	○	国際社会論A	2			2						△		
	○	国際社会論B	2			2						△		
	○	宗教文化論A	2			2						△		
	○	宗教文化論B	2			2						△		
	特論	○	歴史・地域学特論A	2				2						
		○	歴史・地域学特論B	2				2						
キャリア	◎	キャリアデザイン	2			2								

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	免許・資格				
				1年次	2年次	3年次	4年次			社会(中学校)	地歴(高校)	公民(高校)	学芸員	
専習科目	◎	入門演習	2	2										
	◎	導入演習Ⅰ	2		2									
	◎	導入演習Ⅱ	2		2									
	◎	発展演習Ⅰ	2			2								
	◎	発展演習Ⅱ	2			2								
	◎	卒業研究演習Ⅰ	2				2							
	◎	卒業研究演習Ⅱ	2				2							
	◎	卒業論文	4				4							
	◎	入門資料講読	2		2			可						
	△	発展資料講読	2			2		可						
教育の他の科目	△	地域言語論	2	2						△	△		○	
	△	社会学概論	2	2						◎		◎		
	△	政治学概論	2	2						◎		◎		
	△	地誌	2	2						○	◎			
	△	自然地理学	2	2						○	◎			
	△	博物館概論	2	2										
	△	人文地理学A	2		2					◎	◎			
	△	人文地理学B	2		2					△	△			
	△	習俗文化論	2			2						△	○	
	△	心理学A	2		2							△		
	△	心理学B	2		2							△		
	△	フィールド実習事前指導	2	2					可					
	△	フィールド実習(海外)	4	4					可					
	△	フィールド実習(国内)	2	2					可					
△	個別研修	2			2			可	認定科目					
教職に関する科目	◇	教育原理	2	2						◎	◎	◎		
	◇	教育制度論(中・高)	2	2						◎	◎	◎		
	◇	教職概論	2	2						◎	◎	◎		
	◇	教育心理学	2		2					◎	◎	◎		
	◇	教育方法論	2		2					◎	◎	◎		
	◇	特別支援教育論	1		1					◎	◎	◎		
	◇	教育課程論	1		1					◎	◎	◎		
	◇	道徳教育の理論と方法	2		2					◎	△	△		
	◇	特別活動の理論と方法	1		1					◎	◎	◎		
	◇	総合的な学習の時間の指導法	1		1					◎	◎	◎		
	◇	生徒指導A(進路指導を含む)	2		2					◎	◎	◎		
	◇	教育相談	2			2				◎	◎	◎		
	◇	社会科教育法Ⅰ(地理歴史分野)	2		2					◎	◎			
	◇	社会科教育法Ⅱ(公民分野)	2		2					◎		◎		
	◇	地理歴史科教育法	2			2				◎	◎			
	◇	公民科教育法	2			2				◎		◎		
◇	教職実践演習(中・高)	2				2			◎	◎	◎			
◇	教育実習A(事前事後指導を含む)	5				5			◎	※	※			
◇	教育実習B(事前事後指導を含む)	3				3				◎	◎			
学芸員に関する科目	◇	生涯学習概論	2			2							◎	
	△	博物館概論	2	2									◎	
	△	博物館資料論	2		2								◎	
	△	博物館経営論	2		2								◎	
	△	博物館情報・メディア論	2	2									◎	
	△	博物館実習Ⅰ	1			1							◎	
	△	博物館実習Ⅱ	2			2							◎	
	◇	博物館教育論	2	2									◎	
	△	博物館資料保存論	2			2							◎	
	◇	博物館展示論	2		2								◎	
計	△	文化史	4		4			} 2科目8単位以上選択					○	
	△	民俗学	4		4									○
	△	美術史	4		4									○
	△	考古学	4		4									○
計	一般教育科目	85												
	専門教育科目	162												
	教職に関する科目	38												
	学芸員に関する科目	35												
合計		320												